

NGOスタッフになりたい!

次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジ2025



「N」GOの「たま」ご
Nたまに参加して、社会を変える1人になろう!



Nたま22期生 報告書

- 受講者
NGOスタッフになりたい人、
NGOを設立したい人、
NGOでボランティアをしたい人 8名
- 説明会
2025年6月19日(木)・22(日)・
25(水)・28日(土)
- 面談
2025年7月11日(金)・12日(土)
- 開講期間
2025年7月26日(土)入学式
～2026年2月7日(土)修了式
- 講座内容
入学式&オリエンテーション講座「個人目標を立てよう」
名古屋NGOセンターとは?
研修
＜理論＞ NGO活動とは何か(全4回)
＜実践＞ マネジメント能力を高める(全4回)
＜フィールドワーク＞ 現場の生の声に耳を傾ける
① 海外にルーツを持つ人たちを取り巻く日本社会
② 「参加型」コミュニティ開発を高山で学ぶ
③ 国際協力NGOの役割とは?
半年間のNたま研修をふりかえって
修了式
NGOやフェアトレードショップでのインターンシップ(オプション)
選択セミナー(60講座から選択)

主催:(特活)名古屋NGOセンター

協力:中部地域のNGO、本研修修了生、Nたまサポーター、岡谷鋼機(株)、連合愛知、ほか中部地域の企業/団体

- ・2-7 参加者募集パンフレット
- ・8-9 修了式チラシ
- ・10-18 研修の記録

- ・10-11 入学式～修了式
- ・12-13 〈理論〉NGO活動とは何か
- ・14-15 〈実践〉マネジメント能力を高める
- ・16-18 〈フィールドワーク〉現場の生の声に耳を傾ける

- ・19 インターンシップ
- ・20-21 選択セミナー一覧
- ・22-35 研修生のレポート

〈研修生名〉

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 相原 輝（あいはら ひかる） | 5 長屋 加奈子（ながや かなこ） |
| 2 大地 優花（おおじゅうか） | 6 三浦 果子（みうら かと） |
| 3 後藤 純（ごとう じゅん） | 7 森田 千穂子（もりたちほこ） |
| 4 鷲見 菜那香（すみななか） | |

- ・36 プログラムを担当して
- ・37 ご支援・ご協力下さった皆様



次世代のNGOスタッフを育てるコミュニティ・カレッジ2025

NGOスタッフに なりたい!



Nたま8期生(2010年度)修了生

ふたかど ともみ

二角 智美さん

(特活)イカオ・アコ 理事

名古屋で世界の旅人と出逢えるカフェ&ゲストハウスグローバルスタッフ

当時大学4年生の時、将来の進路に迷うなか、Nたまを受講しました。研修を通し、自分の視野が広がり、考え方が変わり、そして行動が変わりました。現在は、国籍関係なく「多様性」の大切さを日々実感しています。Nたまは、今後の人生も変える研修です!



自分が
できることは
何だろう。



社会貢献を
仕事に
したい!



私たちの社会は
このままで
いいの?

Nたま22期生 参加者募集!!

社会を、自分を
変える6か月!

NGOのたまご「Nたま」

本コミュニティ・カレッジは、本年度で22回目の開催です。NGOのたまご、通称「Nたま」と呼ばれています。

Nたまになろう!!



無料説明会【要予約】

	日 時	場所 / 開催方法
第1回	6/19(木) 20:00~21:30	オンライン (Zoom)
第2回	6/22(日) 10:00~12:00	オンライン (Zoom)
第3回	6/25(水) 20:00~21:30	オンライン (Zoom)
第4回	6/28(土) 13:30~16:00	愛知芸術文化センター

■場所

第4回：愛知芸術文化センター12F 催事室D

名古屋市東区東桜一丁目13番地2号

東山線または名城線「栄」駅下車、徒歩5分

(オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)

■内容：詳細説明、修了生による体験談、個別相談等

説明会へ参加を希望される方は、各説明会の前日17:00までに、名古屋NGOセンターウェブサイト上のフォームに記入の上送信してください。または、名古屋NGOセンターまで電話・メールにてお申込みください。

※上記日程以外でも、個別説明や相談を受け付けています。ご希望の方はお問い合わせください。

■主催：(特活)名古屋NGOセンター

■協力(予定含む)：Nたま修了生、Nたまサポーター(個人・組織)の皆さま、岡谷鋼機(株)、連合愛知、中部地域のNGO/企業/団体

■対 象 社会課題に関心があり、何かを始めてみたい方
NGO/NPOの現場をのぞいてみたい方
NGOに就職・転職、副業として関わってみたい方
※年代、経験、属性は一切問いません。

■開講期間 2025年7月26日(土)入学式～2026年2月7日(土)修了式

■開催場所 名古屋市中心部およびオンライン (Zoom)

※オンライン開催は、名古屋NGOセンターにてご参加いただくこともできます。

■定 員 16名 ※応募資格は特にありません。

■申込み方法 別紙申込用紙にご記入の上、事務局まで郵送・メール・FAXまたはウェブフォームにて、お申込みください。

※申込用紙は、事務局までお問い合わせいただくか、ウェブサイト(<https://nangoc.org/ntama/>)からもダウンロードいただけます。

■申込み先 (特活)名古屋NGOセンター
〒460-0004 名古屋市中区新栄町二丁目3番地 YWCAビル7F
TEL: 052-228-8109 | 電話受付時間：火～金13:00～17:00
E-MAIL: n-tama@nangoc.org
URL: nangoc.org/ntama/



【申込みフォーム】

■必 切 2025年 7月3日(木) 必着

※書類選考の後、面談(7/11(金)17:00～21:00、7/12(土)9:00～17:00のうち20分程度)があります。

次世代のNGOスタッフを育てる コミュニティ・カレッジ2025

Nたま
22期生



この研修は、研修生自らが主体となって参加し、お互い学び合いながら創り上げていきます。研修を通して、たくさんの人に出会い、気づき、学びを活かして、研修生自らがNGO活動を創造していけるよう企画されています。「Nたま」は、自らが考えて行動するための、いわばトレーニングの場です。

社会を変えるために動きはじめたいと思っている人、この機会に挑戦してみませんか？

Nたまで一步踏み出そう！

このコミュニティ・カレッジは、スキルアップ講座やNGOに就職を斡旋するための講座とは違います。世界と「私」の関係を考える講座です。自分に何ができるのか、どう行動すればいいのか、それを半年間かけて自分自身で考え続けます。自分がこれまで経験し、吸収してきた知識や技術をどう世の中のために使うのか、様々な形で問われ続けます。

Nたまが修了したからといってNGOでの就職を約束するものではありませんが、不思議なことに修了生の多くがNGO/NPO関係の仕事をしています。なぜでしょうか？彼らは、研修を受けていく中で自分を変えたのです。きっと新しい考え方を手に入れたのでしょう。自分と世界のつながりを実感し、自らの手で自分の答えを見つけたからに違いありません。自分の答えを見つけた人は、強い行動力を発揮するのです。

名古屋NGOセンターは、そのように行動できる人々と手をつなぎ、よりよい社会を目指したいと思っています。

●受講料：98,000円(税込)

※学生は1万円引

※食事代・交通費・宿泊費は別途必要

※名古屋NGOセンター個人会員(賛助会員B)

以外の方は5,000円増

※分割での支払い可(学生のみ)

●インターンシップ(オプション)：

受講料に含む



7月26日(土) 10:00~17:00

●Nたま入学式&オリエンテーション講座

10:00~12:00

入学式

研修生同士が顔を合わせます。
研修のスケジュールや全体像
について説明します。



自己紹介をする研修生

13:00~17:00

オリエンテーション講座

「Nたま研修半年間の個人目標を立てよう」

てついのぶひと
進行役：鉄井 宣人さん

名古屋NGOセンター 国際理解・開発教育委員(Nたま7期修了生)

半年間のNたま研修をより有意義なものにするために
個人目標を立てます。

8月2日(土) 10:00~12:00

●名古屋NGOセンターとは？

さかいとしこ
講師：坂井 敏子さん

名古屋NGOセンター職員

名古屋NGOセンターの活動を紹介します。

2026年1月31日(土) 10:00~17:00

●半年間のNたま研修をふりかえって

てついのぶひと
進行役：鉄井 宣人さん
名古屋NGOセンター
国際理解・開発教育委員
(Nたま7期修了生)

Nたま研修を振り返って、
修了後のビジョンを考えます。



座談会形式で自由に話し合う

2026年2月7日(土) 12:30~18:30

●修了式

およそ半年間にわたるそれぞれの学びを共有します。
インターンや講座でお世話になった方々も参加します。

理論編

全4回シリーズで学ぶ！「NGO活動とは何か」

NGOが取り組む様々な課題(貧困、人権、戦争、ジェンダー、環境など)はどこから生まれるのか。実は私たちの生活と深く関わっています。社会が生み出す構造的な課題の本質を知り、NGOとして活動するとはどういうことかについて、全4回シリーズの講座を通じて考えます。

第1回 8月2日(土) 13:15~17:15

NGOはなぜあるのか ~役割、歴史、「N」の意義~

講師:池住 義憲さん

大学卒業後、東京YMCA勤務。この間の世界ベトナム難民救済・復興協力事業にワールドサービスワーカーとして、南ベトナム(当時)に勤務。その後、アジア保健研修所(AHI)に17年間勤務。2016年まで立教大学大学院教授。現在は、長年にわたるNGO経験を活かして国内外でワークショップや講演を展開している。



第3回 12月14日(日) 13:00~17:00 オンライン

主流秩序に依存しない生き方 ~自分への視点を見つめなおす~

講師:伊田 広行さん 立命館大学 非常勤講師

大学でジェンダー論等を担当するかたわら、各地でデートDV(ストーカー)防止教育、DV加害者教育プログラム(NOVO大阪)運営、自殺相談、労働相談、貧困相談、男性相談などを行っている。



第2回 10月18日(土) 13:00~17:00 オンライン

飢餓を生み出すカラクリ ~自由貿易と南北格差~

講師:神田 浩史さん (特活)東京・垂井 理事

アフリカなどでODAの農業開発事業に従事した後、NGOベースで東南アジアなどの地域調査に従事。それらの経験を基に持続可能な社会のあり様を『糧豊』と称し、岐阜県垂井町を基盤に揖斐川流域の循環型社会の再構築に取り組む。



第4回 2026年1月18日(日) 13:00~17:00

参加の回路をつむぐ ~おまかせ社会を超えて~

講師:伊沢 令子さん (特活)NIED・国際理解教育センター 代表理事

大学卒業後、企業翻訳業をした後、1994年に国際理解教育と出会う。ERIC国際理解教育センターでの研修を経て、1998年に名古屋でNIED・国際理解教育センターを設立。自治体、国際関係団体、大学・学校、NGO/NPOなどの依頼により年間100回以上の参加型ワークショップを実施。



実践編

マネジメント能力を高める(全4回)

NGO活動を創造していくプロセスを体験することで、NGOマネジメントの基礎を学びます。グループに分かれ、社会課題について、「自分たちが持ち寄ってできること」「地域社会に必要とされていること」を模索しながら、自主企画を実施します。グループごとに自由に集まる機会を何度か設け、Nたま修了生の応援を得ながら進めます。

第1回 9月7日(日) 10:00~17:00

企画づくりとは？ ~シミュレーションしてみよう~

講師:後藤 美樹さん
(特活)外国人ヘルプライン東海 代表

織田 元樹さん
(特活)ボラみみより情報局 代表理事

第3回 11月1日(土) 10:00~17:00

当事者が抱える課題を分析、活動のブラッシュアップ

グループで取り組みたい課題ごとに問題を分析し、自主企画を実施するにあたって必要なスキル、視点、考え方を学びます。

講師:石井 伸弘さん
かえる農園 代表
(一社)三河の山里課題解決ファーム 理事



第2回 10月4日(土) 10:00~17:00

自主企画のグループ分け

取り組みたい課題を出し合い、グループ分けをします。

第4回 12月7日(日) 10:00~17:00

実施する活動は賛同を得られるか？

講師:織田 元樹さん
(特活)ボラみみより情報局 代表理事



進行役、自主企画 作りのサポーター



鉄井 宣人さん
Nたま7期修了生



二角 智美さん
Nたま8期修了生



岩田 崇さん
Nたま6期修了生



浅野 陽子さん
Nたま6期修了生

	7 月	8 月	9 月	10
オリエンテーション 基礎講座	7/26 入学式/目標づくり	8/2 名古屋NGOセンターとは？		
理論編 NGO活動とは何か		8/2 第1回 NGOはなぜあるのか		10/18 第2回 飢餓 オンライン
実践編 マネジメント能力を高める			9/7 第1回 企画作りとは？	10/4 第2回 自主
フィールドワーク		8/30 第1回 外国にルーツを持つ人 たちを取り巻く日本社会	9/13~15 第2回「参加型」コミュニティ 開発を高山で学ぶ	
選択セミナー	セミナーリストの中から、ご自身で選択していただきます			
インターンシップ(オプション)	インターン先の調整	インターンの実践(期間などは応相談)		

※研修の会場は名古屋市内中心部を予定しています。オンライン開催は、名古屋NGOセンター事務所でご参加いただくこともできます。 ※プログラム等に関する最新情報はウェブサイト(<https://www.ngo-center.jp/>)

フィールドワーク

現場の生の声に耳を傾ける

第1回

8月30日(土) 10:00~17:00

海外にルーツをもつ人たちの 取り巻く日本社会

場所:豊田市

コーディネーター:神田すみれさん
多文化ソーシャルワーカー
コミュニティ通訳者・Nたま5期修了生



愛知県に住む外国籍の方は、ここ20年間で倍になり、32万人弱が生活されています。生活する上でどのような困りごとがあるのか、当事者や支援者から話を聞きます。



訪問先の「JUNTO」の日本語学習支援

第2回

9月13日(土)~15日(月・祝)2泊3日

「参加型」コミュニティ開発を 高山で学ぶ

場所:岐阜県高山市 ※現地集合・現地解散

協力団体:丹生川地区 里山を楽しむ会
認定NPO法人 まちづくりスポット

どのような社会をダレとどのように創るのか。「開発」という課題は、海外だけではなく、わたしたちの課題でもあり「地域の課題は世界の課題」と言えます。高山市でのまちづくりの活動を通じて参加型コミュニティ開発を学びます。



住民からのヒアリング

第3回

11月22日(土) 10:00~17:00

国際協力NGOの役割とは？ 誰もが変化を起こすことができる「人づくり」

場所:愛知県日進市

協力団体:公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)

誰もが尊重され、健康に暮らせる社会を目指して、自由闊達に学びあう場を提供する国際協力NGOを訪問します。健康とは？を考えるワークショップを行ったり、地域保健・開発活動に携わる国外のNGOワーカーとオンラインでつなぎ、お話を聞きます。また、AHIを事例にして国際協力NGOの役割についても学びます。



AHIの活動を聞く

選択セミナー

※開催方法はセミナーごとに異なります。

南北問題、環境、多文化共生などのNGOが主催するセミナーから自分が関心のあるセミナーを選択・受講し、課題の背景や様々な活動について学びます。

※セミナーの参加費は、1講座1,000円まで補助します。残金は自己負担となります。

※2024年度は65講座でした。過去の講座リストはウェブサイトよりご覧ください。

【今までのセミナー例】

- ・国際協力カレッジ2024～国際協力を学び、行動するきっかけをつかもう！～[土曜13:00~17:00]
- ・ワークショップ「みんなで考える世界と食の未来」[火曜19:00~21:30]



国際協力カレッジ



21期修了生の声(2024年度Nたま研修の参加者)

昨年度の参加者(21期生)は11名。NGOに興味がある、NGOに就職・転職したい、NGOを立ち上げたい、という希望を持つ方々でした。研修中は学業や仕事との両立を見事にこなしてくれました。

さかの あつし
坂野 篤史さん
Nたま参加当時:
大学4年生



Nたまは、私にとって「研修」でありながら、「居場所」でもありました。一歩踏み出したことで、学生にとっては貴重すぎる経験とありのままの自分を一杯表現できる機会に出会えました。

よだん ちえ
余田 千恵さん
Nたま参加当時:
社会人8年目



素敵な仲間に出会い、様々な考え方に触れることができ、自分の考えや生き方を見つめ直すきっかけになりました。取り組んでみたいことが明確になったので、できることから挑戦していきたいです。

かわむら けんた
川村 健太さん
Nたま参加当時:
社会人4年目



「できる」という感覚を体得できた半年間だったと思います。普段感じる社会問題、社会課題、もやもやとしたことに気付き、自己発信型で、行動するためにはどうすればよいのか？基本的な考え方と態度のヒントを吸収し、仲間と企画できたと思います。

なりた みき
成田 美紀さん
Nたま参加当時:
社会人13年目



Nたままでの学びをどのように捉え、何を得て、自分の人生にどう生かすか。研修期間中だけでなく、修了してからも問われ続けている感覚を味わっています。将来どのような社会に生きるかは、自分たちの選択と行動次第。

	11 月	12 月	2026年 1 月	2 月
			1/31 半年間のNたま研修をふりかえって	2/7 修了式
生み出すカラクリ		12/14 第3回 主流秩序に依存しない生き方 オンライン	1/18 第4回 お任せ社会を超えて	
企画のグループ分け	11/1 第3回 当事者が抱える課題の分析、活動のブラッシュアップ	12/7 第4回 実施する活動は賛同を得られるか？		
	11/22 第3回 国際協力NGOの役割とは？			

//nangoc.org/ntama/program/)をご確認ください。

オプション

NGOやフェアトレードショップでのインターンシップ

1 認定NPO法人 アイキャン

【名古屋市東区(新栄町駅より徒歩10分)】



人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」を合言葉に、子どもたちが平和な社会で暮らせるよう、現在は主にフィリピン路上の子どもたちとともに活動をしている。国際理解教育の一環として、日本国内での講演、フェアトレード商品の販売、スタディーツアーの実施等も行っている。

火 水 木 金 土 (週2日以上・祝日除く)
(週1日の場合は応相談)

団体より

フェアトレード事業、街頭募金活動、ボランティア対応、イベント企画などを担当していただけます。

2 (公財)アジア保健研修所(AHI)

【愛知県日進市(黒笹駅より徒歩15分)】



1980年設立。日本を含むアジアの地域で、「誰もが尊重され健康に暮らせる社会」をめざして行動する人を育てるために、学び合う場づくりを行う。地域保健や開発に携わるNGOスタッフ等を対象にしたリーダーシップ研修のほか、学びの実践のサポート、情報配信や報告会など、さらに学び合う機会を提供する。

月 火 水 木 金 土 (原則週2日以上・応相談)

団体より

アジア各国のNGOスタッフが参加する国際研修の運営補助や、AHIサポーターとの関係づくりのための活動の企画・実施サポート等に関わっていただけます。

3 (特活) 泉京・垂井(せんと・たるい)

【岐阜県不破郡垂井町(垂井駅より徒歩20分)】



“幸福度の高いまち・垂井”を目指して、垂井町や揖斐川流域の地域づくりに取り組んでいる。住民主体のまちづくりを推進する人材の育成、政策提言や協働事業、フェアトレードと地産地消品を扱うショップの運営、フェアトレードタウンを推進する活動などを行っている。

火 水 木 金 土 (週1日以上)

団体より

フェアトレード・地産地消、地域の居場所作り、アドボカシーを学ぶ「あどぼの学校」、地域でのSDGs推進など、関心のある事業の実施補助を担っていただけます。

4 (公財)名古屋YWCA

【名古屋市中区(栄駅より徒歩2分)】



女性を中心となって活動、運営しているNGO。女性、平和、子ども、福祉に関する活動を実施。社会の問題に関心をもち、若い女性のリーダーシップを育成する活動にも力を入れている。外国にルーツを持つ子どもたちの日本語学習支援は、この地区では草分け的存在。いろいろな背景を持つ人が安心して集う場所を目指している。

火 水 木 金 土 (週2日以上)

団体より

多様な活動を行っているため、さまざまな人との出会いがあると思います。会員活動を行うボランティア事業部の中で、運営に関わっていただき、「平和」「女性」に関するプログラムを企画・実施・振り返りまでを行っていただく予定です。

5 (特活)チェルノブイリ救援・中部

【名古屋市中区(鶴舞駅 名大病院口より徒歩4分)】



チェルノブイリ原発事故被災者支援活動を1990年から開始。被災者の医療支援、心の支援としてクリスマスカードキャンペーンを実施している。2022年2月24日ロシア軍のウクライナ侵襲後は、戦禍に見舞われている人々への支援も実施。福島第一原発事故被災地支援として、南相馬市の子ども食堂利用者への支援を行っている。

月 水 金 (週1日以上)

団体より

放射能被災地である「福島」の子ども達と、放射能被害と戦闘に見舞われているウクライナの子ども達へ向けた「クリスマスカードキャンペーン」を担当していただけます。

■インターンシップについて

・研修生1人につきインターン先は1団体です。申込書類を参考にし、通勤距離などの条件、他の研修生とのバランスを考慮の上、研修生と相談しながらインターン先を決めていきます。

・期間は7月下旬～2026年2月末(7ヵ月間)の中で224時間を目安としています。時間や日数などは、研修生と受入団体がお互いに相談の上で決定します。

<参考> 週4日の場合：1日あたり7時間/2ヵ月間/計32日間/計224時間
週2日の場合：1日あたり7時間/4ヵ月間/計32日間/計224時間
または1日あたり4時間/7ヵ月間/計56日間/計224時間

・受入可能な曜日に○をつけてあります。ただし×がついている曜日に、各団体が主催するイベントやセミナーなどがあり、参加を依頼する場合がありますのでご了承ください。

※各団体の詳しい活動内容は、Nたまウェブサイトからご覧ください。

URL: <https://nangoc.org/ntama/program/>

6 顔の見える店～FAIR TRADE 風's

【名古屋市中区(黒川駅より徒歩8分)】



中部地方初のフェアトレード専門店から派生した「手仕事+フェアトレード」の店。誰もが大切にされる社会を目指し、国内外で大切に作られた商品(お菓子、コーヒー、刺繍品など)から持続可能な仕事づくりを発信している。店に集まる人、モノの多種多様な関わりから、世界のこと身の回りのことに目を向け学び合う場となっている。

月 火 水 木 金 土 (週1日以上、オンライン可)

団体より

店舗運営(接客、仕入)営業(納品)広報など希望を聞いた上でお願いします。お客様はじめ店を通じた多様な出会いから楽しく学び、共にフェアトレードの発信ができたら嬉しいです!

7 ハンガーゼロ((一財)日本国際飢餓対策機構)

【名古屋市中区(栄駅より徒歩3分)】



「からだの飢餓」と「こころの飢餓」この世界に存在する2つの飢餓の撲滅を目指し、アフリカやアジアなどの約15カ国で活動。飢餓・貧困に苦しむ地域の住民が、地域の課題を自分事として捉え自主的かつ持続的に地域変革を行っていくことができるように、互いに学びあう人材育成プログラムを通してサポートしている。

月 火 木 金 土 (週2日以上)
(週1日の場合は応相談)

団体より

イベント出展の企画や準備をするボランティアチームのコーディネーター、海外の活動の翻訳や記事の作成など、海外の活動を学び伝える業務に携わっていただけます。

8 認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構

【名古屋市中区(伏見駅より徒歩7分)】



安全な水の確保は貧困から脱する第一歩となる。そのため「水からはじまる自立支援」をキャッチコピーに、ホープは水供給、教育支援、コミュニティ開発等、現地の文化・伝統と共存できる技術や手法を提供し、主にアジアやアフリカで自立につながる支援活動を行っている。

月 火 水 木 金 (週1日以上、オンライン可)

団体より

事業の継続には、日本国内での取り組みが重要です。イベントの運営、翻訳、海外事業のサポート、そして団体を支える事務業務などに携わっていただけます。海外事業やNPO運営について学べる環境です。

9 (特活)名古屋NGOセンター

【名古屋市中区(栄駅より徒歩2分)】



貧困・紛争・環境破壊などの地球規模の課題を解決するために、市民が主体となり取り組む活動を支援している。加盟NGO(36団体)とともに市民への情報発信、政府への政策提言、NGOの人材育成などを行っている。様々な人々が頻りに集う場所である。

火 水 木 金 (週2日以上)

団体より

NGOを対象にした研修、これから国際協力に関わりたい人たち向けのイベントなどを担当していただけます。

修了生は次の団体に羽ばたきました

認定NPO法人レスキューストックヤード/(特活)にしん市民環境ネット/全国市民オンズマン連絡会議/名古屋市民活動推進センター/認定NPO法人ブリッジエージャパン/(特活)チェルノブイリ救援・中部/国際青年環境NGO A SEED JAPAN/認定NPO法人アイキャン/(一社)APバンク/コミュニティ・ユース・バンクmomo/(特活)エコデザイン市民社会フォーラム/環境省中部環境パートナーシップオフィス/ピースポート/(特活)わっぱの会/日本パングラデシュ友好協力会/(公財)アジア保健研修所/(特活)名古屋NGOセンター/(公財)名古屋YWCA/ハイチの会/学校法人アジア学院/ご近所の外国人とアミーゴになろう!の会/キャンヘルブタイランド/(特活)泉京・垂井/(特活)地域国際活動研究センター/認定NPO法人ホープ・インターナショナル開発機構/(特活)百楽劇場/日進市民グループゆるやかネットワーク/(公財)難民事業本部関西支部/ミコノの会/多文化共生サークルsmile/なごや自由学校/アフリジャパン/西三河国際理解教育情報センター/オヴァ・マの会/(特活)外国人医療センター/(特活)起業支援ネット/認定NPO法人ムラのミライ/認定NPO法人セカンドハンド/(有)フェアトレード・デザイン/(特活)NIED・国際理解教育センター/(特活)ボランティア・ネットワーク/ハンガーゼロ((一財)日本国際飢餓対策機構)/ルンアルン(晩)プロジェクト/(特活)ブラジル友の会/パングラデシュの人々を支える会/(特活)イカオ・アコ/認定NPO法人難民を助ける会/(特活)AMDA社会開発機構/(特活)暮らし応援ネットワーク/(特活)アーシェ・アジアの農民と歩む会/パングラデシュ教育支援の会(BESS)/NGO・世界の子どもたちを貧困から守る会/ニカラグアの会/(特活)グッドネーバース・ジャパン/(特活)ささしま共生会/(特活)地域福祉サポートちた/(特活)エム・トゥ・エム/(特活)ACF JAPAN(アジア子ども基金)/(公財)名古屋国際センター/(公財)三重県国際交流財団/(特活)ミネアム・プロミス・ジャパン/認定NPO法人国際協力NGOセンター/認定NPO法人ジャパンハート/CAPCO(大垣外国人コミュニティサポートセンター)/フェアトレードショップ風's/(公財)あいコミュニティ財団/(特活)市民フォーラム21・NPOセンター/(一社)草の根ささえあいプロジェクト「居宅介護事業所てこぼこ」/(特活)ボラみより情報局/(公財)愛知県国際交流協会/マイライフ刈谷/(特活)こどもNPO/エシカル・ペネロープ/認定NPO法人ジャパニール=市民による海外協力の会/(特活)市民協働ネットワーク長岡/フェアトレードショップびーす/(特活)ピースデポ/株式会社Ridilover/(特活)DIFAR/認定NPO法人テラ・ルネッサンス/(特活)地域の未来・支援センター/株式会社マザーハウス/認定NPO法人アクセス・共生社会をめざす地球市民の会/(一社)よだか総合研究所(順不同)



修了生の活躍

1期生から21期生まで計297人のうち、のべ164人が
NGO/NPOスタッフ(有給/無給問わず)として羽ばたきました!



たかの しおり
高野 菜さん

(特活)DIFAR
国内事務局スタッフ

将来はNGOスタッフになりたい!という想いがあったものの、何から始めていいのかわかりませんでした。そんな時、Nたまと出会い、自分と向き合う時間を持つことができました。何年経っても、ここが自分の「原点」だったと言えると思います。

12期生
(2014年度)



まつうら ふみのり
松浦 史典さん

認定NPO法人ホープ・インターナショナル開発機構
ファンドレイジングマネージャー

「考え方が変われば行動にも変化が生まれる。」これがNたまで得た大きな事だと私は思っています。興味があり、このチラシを手に取り読んだ方、迷うこともあるでしょうが、行動に移すかどうかであなたの将来は大きく左右されますよ。

9期生
(2011年度)



ひがし けんじ
東 憲吾さん

株式会社Ridilover(リディラバ)
メディアコミュニティチーム

「社会貢献を仕事に?イイね」という淡い興味から参加しました。結果、表層的な知識ではなく、社会問題の起る構造や現場のナマの声など深い部分を知ることができました。現在はこの経験を活かして、社会問題の構造を伝えるメディア「リディラバジャーナル」の運営を行なっています。

14期生
(2016年度)



くつわだ ようこ
轡田 容子さん

(公財)名古屋YWCA 職員

NGOというキーワードで集った世代も背景も様々な方たちと、価値観や人間性を120%出し切って学びあった半年間でした。講座修了後もアドバイスや刺激を受ける仲間を得ることができ、NGO団体への就職も叶えることができました。

3期生
(2005年度)



ふじもり みな
藤森 みな美さん

認定NPO法人テラ・ルネッサンス
啓発事業部長

Nたまに参加し、かけがえのないたくさんの出会いと学びがありました。Nたまで出会った方々に力をいただき、幸運にも卒業から今に至るまで、NGOで働き続けることができています。自分を、社会を今よりもっと良くしたいと思う方は、ぜひ参加してください!

10期生
(2012年度)



しおた まさや
塩田 真也さん

認定NPO法人アクセス
-共生社会をめざす地球市民の会 事務局次長

NGO転職を目指してはいたものの、それまでNGOで何がしたいのか「なんとなくのイメージ」だったのが、Nたまを通して具体的にどんな活動でどんな役割を果たしたいか、はっきりしました。今の仕事もNたま事務局に紹介いただいた求人者がきっかけです!

19期生
(2022年度)



こいけ たつや
小池 達也さん

(一社)よだか総合研究所 代表理事

地域資源の適正管理や、持続可能な社会づくりを実現したいと思い、Nたまに参加しました。「NGO活動とは何か」では、非営利セクターで働く上でもっとも大切で基礎となるマインドを形作ることができました。「マネジメント能力を高める」では、様々な対話やアクションを通じて、「社会の問題構造」と「自分のやるべきこと」が、実感を持ってクリアに見えるようになりました。

12期生
(2014年度)



きむら ようこ
木村 容子さん

名古屋市市民活動推進センター 推進員
(特活)イカオ・アコ 事務局

以前は社会課題から思わず目を背けてしまうところがありましたが、Nたま修了後、自分なりに課題に関わり続ける基本姿勢ができました。気づけば行動範囲も広がりました。Nたまでの多彩なバックボーンを持つ方々との出会いは、貴重な財産になっています!

17期生
(2019年度)

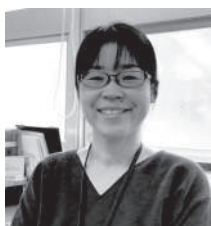


あさの ようこ
浅野 陽子さん

ハンガーゼロ((一財)日本国際飢餓対策機構)
海外事業部部長

ペルーでの出会いから、「こんな不平等で不条理な世界を何とかしたい!」という思いに駆られてNたまに参加。インターンシップでお世話になった団体の職員となって10年以上。世界20カ国以上の団体と協力しながら、飢餓と貧困のない世界を目指して「私から始める」取り組みを続けるわたしにとって、Nたまは「原点」!

6期生
(2008年度)



わだ さとみさん
和田 さとみさん

岐阜県高校教員
国際/日本語担当

2021年から外国につながる生徒が全校生徒の半数を占める岐阜県内公立高校で、校内外連携業務と日本語教育に携わっています。GO(行政)とNGOの両面から社会現象を捉えられるように今後も学び続けていきます。

13期生
(2015年度)



まえがわ たくみ
前川 拓巳さん

株式会社マザーハウス
名古屋本店 店長

参加理由は30歳を目前に「社会課題と自分を掛け算した時に何が出来るか」を模索したいと思ったからです。それが明確になったのは、講師や仲間と共に考え、議論をする時間でした。今のキャリアに踏み出せたのはNたまきっかけなので、心から感謝しています。

16期生
(2018年度)



かんだ すみれさん
神田 すみれさん

多文化ソーシャルワーカー
コミュニティ通訳者

Nたま研修で共に考え、学んだ同期や、研修を通じて出会った人たちは、今も迷った時、悩んだ時に戻ることができる私にとってのホームでもありベースでもあります。すべての人が自分の天分を十分に活かして生きられる社会を目指して、今の自分にできることを取り組んでいます。

5期生
(2007年度)

ウェブサイトにて、昨年の研修の様子や
修了生のその後がご覧いただけます。



【Nたまweb】



Nたまは人育成を通して
SDGsに貢献しています。

日 時

2026年2月7日(土)
13:00~17:30

会 場

なごや人権啓発センター
ソレイユプラザなごや

名古屋市中区栄一丁目23-13 伏見ライフプラザ12階
地下鉄「伏見」駅 徒歩7分

定 員

20人(先着順、要事前申込み)

参加費

無 料



Nたま
22期生

次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジ
(通称:Nたま)2025

NGOのたまご 研修生の修了式

ぜひお越しください!



内 容

- ・Nたま研修の紹介
- ・研修生のスピーチ
(一人発表8分、質疑応答)
- ・自主企画の発表(2グループ)
- ・インターン受入団体からのコメント

※修了式には、研修中にお世話になったインターン受入先
NGOのスタッフも参加し、コメントをもらいます。

2025年7月26日の入学式から、早いもので約6か月を
迎えます。研修を通してNGOの第一線で活躍している方々
に出会い、考えや想いに触れ、NGOとして活動することは
どういうことなのかを学んできたNたま22期生たち。仕事や
学業の間に時間をつくり、インターンシップやグループでの
自主企画にも取り組みました。

NGOや国際協力に関心をお持ちの方、人財育成に関心を
お持ちの方など、ご参加をお待ちしております。

本コミュニティ・カレッジは22回目の開催です。NGOの
たまご、通称「Nたま」と呼ばれ、現在まで297人が受講
し、のべ164名の方がNGO・NPOスタッフ(有給職員・
無給ボランティア含む)として羽ばたいています。

申込み & 問合せ先

(特活)名古屋NGOセンター

愛知県名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル7F

TEL&FAX: 052-228-8109

(受付時間: 火~土曜日 13時~17時 ※土曜日は予約制)

MAIL: info@nangoc.org

申込締切 2月6日(金)17:00





研修生のご紹介



あいはら ひかる
相原 輝さん

フィールドワークで訪れた外国籍の子どもたちを支援している現場では、子どもたち、スタッフたちが思い思いの時間を過ごし、彼らの居場所になっていました。重要なのは、開放的な考えや雰囲気をつくって、まとめられる人だと気づかされました。



I・Mさん

半年間の自分の目標を整理するのは少し大変でしたが、「その場に集中して考える」こと、そして参加者が士が率直に気持ちや考えを発表しており、ありのままで大丈夫なんだなと思えました。Nたま研修参加前は不安もありましたが、リラックスして受けることができました。



おおし ゆうか
大地 優花さん

グループでの作業や発表を通し、「自分が考えていることは決して当たり前ではなく、相手にとっては新鮮に映ることがある」のだと思いました。また、より良い企画を作るためには様々な背景を持つ人々と情報共有を行うことが重要であると感じました。



ごとう じゅん
後藤 純さん

これまでずっと感じていたボランティアをすることへの違和感は、「援助の思想」からくるものであり、そこから脱却が必要であることに納得しました。課題の克服のために、構造を知り、構造を変えるアプローチを考えていきたいです。



すみ ななか
鷲見 菜那香さん

平和とは何か、自分の中で曖昧でしたが講義を通して「すべての人が等しく食べることができる社会」ということ、また外国人の方への支援には、言葉と制度の壁、さらに心の壁があることに気づかされました。



ながや かなこ
長屋 加奈子さん

「できたこともある。できなかったこともある。」講師からの言葉と自分自身の経験が重なり心に残っています。できなかったことがあるから思うようにいかなくても続けられた。これからも自分らしく積み重ねていこうと思います。



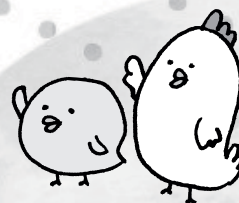
みうら かの
三浦 果子さん

温かいコミュニケーションは、AIに取って代われないスキルだと思います。「考える」「伝える」「受け取る」を大切に、私の将来の武器になるようなコミュニケーションスキルを身に着けたいと思います。



もりた ちほこ
森田 千穂子さん

自主企画を進めていく中で、アイデアを出すだけでなく、要素間の真の因果関係を見極めることが大切だと肝に銘じ、限られた時間の中でどこまでやれるのか、制約があるからこそそのやりがいも感じています。



※ 研修生のコメントは、毎回の研修の終わり等に行った「ふりがえりシート」等から抜粋しています。

●Nたま入学式

■日 時:2025年7月26日(土)10:00~12:00

■場 所:ソレイユプラザ 研修室

- ・アイスブレーキング(なんでもバスケット)
- ・自己紹介
- ・これから学ぶ仲間に伝えたい「3つの私と研修の期待」
- ・研修の内容紹介、質疑応答



入学式

●オリエンテーション講座

「Nたま研修半年間の個人目標を立てよう」

■日 時:2025年7月26日(土)13:00~17:00

■場 所:ソレイユプラザ 研修室

■講 師:鉄井 宣人さん

(名古屋NGOセンター 国際理解・開発教育委員)

- ・参加型研修で大事な3つのこと(尊重・協力・守秘)
- ・アサーティブな伝え方の特徴やポイント
- ・コミュニケーションとは何か
- ・創りたい社会像
- ・Nたま参加の動機をふりかえる
- ・研修の目標づくりと達成のための行動宣言3箇条
- ・仲間にエールを送ろう!



オリエンテーション

●名古屋NGOセンターとは？

■日 時：2025年8月2日(土)10:00～12:00

■場 所：JICA中部なごや地球ひろば 2FセミナールームB1・2

■講 師：村山 佳江さん（名古屋NGOセンター 職員）

- ・NGOについて紹介
政府企業との違い、組織形態、雇用形態などの説明
- ・名古屋NGOセンターとは？
名古屋NGOセンターの歴史、ビジョン、ミッション、
活動内容紹介など
- ・質疑応答



ネットワークNGOについて学ぶ

●半年間のNたま研修をふりかえって

■日 時：2026年1月31日(土)10:00～17:00

■場 所：ソレイユプラザ 研修室

■講 師：鉄井 宣人さん（名古屋NGOセンター 国際理解・開発教育委員）

- ・自主企画の良かった点／次回やるならこうしたい点を出し合い、自主企画の成果は何だったかを確認した。
- ・これまでのNたま研修を振り返り、目標と行動宣言3か条を改めて自己評価をした。

●修了式

■日 時：2026年2月7日(土)13:00～17:30

■場 所：ソレイユプラザ 研修室

- ・自主企画の発表、質疑と参加者からのコメント
- ・Nたま研修を通して学んだことの発表、インターン受け入れ団体からのコメント
- ・Nたま研修生同士での修了書の授与



理論

全4回シリーズで学ぶ!「NGO活動とは何か」

第1回 NGOはなぜあるのか ～役割、歴史、「N」の意義～

- 日 時:2025年8月2日(土)13:15～17:15
- 場 所:JICA中部なごや地球ひろば 2FセミナールームB1・2
- 講 師:池住 義憲さん

- ・政府組織(GO)と非政府組織(NGO)の違い
- ・社会に向き合うワークショップ
「社会のなかで、なくしたいもの・取り去りたいもの・廃絶したいもの」
- ・時代の贈り物:すぐにはできなくても100年後には実現することがある
- ・池住さんのNGO経験と「無力感を克服すること」、「何処に向かって誰の傍に立って誰と共に歩むのか」
- ・NGOの歴史
- ・平和とは何か



GOとNGOについて話し合う

第2回 飢餓を生み出すカラクリ ～自由貿易と南北格差～

- 日 時:2025年10月18日(土)13:00～17:00
- 場 所:オンライン
- 講 師:神田 浩史さん((特活)泉京・垂井 理事)

- ・自己紹介:何川の流域に住んでいる?食べ物へのこだわりは?
- ・神田さんの経歴紹介
- ・飢餓を生み出すカラクリとは?自由貿易と南北格差、歴史を学ぶ
- ・トルーマンによる“develop”の再定義
- ・今現在起きている「飢餓」について、意見交換と神田さんからのコメント



飢餓の構造を知る



第3回 「主流秩序」に依存しない生き方 ～自分への視点を見つめなおす～

■日 時:2025年12月14日(日)13:00～17:00

■場 所:オンライン

■講 師:伊田 広行さん(立命館大学非常勤講師)

- ・私たちが暮らす今の社会の仕組みを知る:生きがたさ、自己肯定感
 - ・主流秩序とは何かについての説明
 - 主流秩序を形成するサブ秩序、主流秩序の様々な定義の紹介
 - ・主流秩序への3つのスタンス
 - その1. 積極的従属及び消極的従属:主流秩序の流れに加担するもの
 - その2. 不服従及び非協力:主流秩序に加担はしないものの、積極的な抵抗を行わない
 - その3. 抵抗・闘争・反乱:主流秩序に対抗する行動を実際に起こし、周りに働きかけるもの
- 人は日々の生活の中で、知らず知らずのうちに主流秩序に対する影響を及ぼしていると認識することが重要である
- ・主流秩序に対して、自分はどうか考えるか、どうするかについて考え、全員で意見交換、質疑応答



伊田さんから主流秩序について学ぶ

第4回 参加の回路をつむぐ ～おまかせ社会を超えて～

■日 時:2026年1月18日(日)13:00～17:00

■場 所:ソレイユプラザ 研修室

■講 師:伊沢 令子さん((特活)NIED・国際理解教育センター 代表理事)

- ・私たちが生きる社会が抱えている問題を整理する
- ・私たちの社会が抱えている問題の原因・背景を探る
- ・お任せ社会のメリット・デメリット
- ・社会参画に必要なもの役立つことを考える
- ・ふりかえり



人権問題や環境問題について解決方法を考える



実践

マネジメント能力を高める(全4回)

第1回 企画づくりとは？ ～シミュレーションしてみよう～

- 日 時:2025年9月7日(日)10:00～17:00
- 場 所:ソレイユプラザ 研修室
- 講 師:後藤 美樹さん((特活)外国人ヘルプライン東海 代表)、
織田 元樹さん((特活)ボラみみより情報局 代表理事)
- 進行役:二角 智美さん(Nたま自主企画サポーター)

<後藤 美樹さん>

- ・外国にルーツを持つ方の現状を知る
- ・外国の方と日本社会や制度がつかない、または阻む「3つの壁」
- ・外国人ヘルプライン東海の事業紹介、実際の相談内容から考える

<織田 元樹さん>

- ・企画づくりとは何か:
実際の企画書を見ながらシミュレーション
- ・個人ワークとグループワーク:
外国にルーツを持つ方、どんな人が、どんなことに困っているのか
たくさん書き出してみ、ポストイットで共有
共通するものをカテゴリに分けて発表
- ・2つのグループに分かれて、企画を実際に考えてみる



社会にある課題について意見を出し合う

第2回 自主企画のグループ分け

- 日 時:2025年10月4日(土)10:00～17:00
- 場 所:ソレイユプラザ 研修室
- 進行役:鉄井 宣人さん(Nたま自主企画サポーター)

- ・宿題の発表と情報の共有
「外国にルーツをもつ方が抱える課題」がある原因やその支援策について、各自調べてきたことをグループ内でまとめる
- ・グループごとに解決したい社会課題について意見を出しあい、企画内容を考え、企画シートを作成。グループ内でのルール作りや役割分担についても話し合う。



グループに分かれて企画を考える



第3回 当事者が抱える課題を分析、活動のブラッシュアップ

- 日 時:2025年11月1日(土)10:00~17:00
- 場 所:ソレイユプラザ 研修室
- 講 師:石井 伸弘さん
(かえる農園 代表、(一社)三河の山里課題解決ファーム理事)
- 進行役:浅野 陽子さん(Nたま自主企画サポーター)
 - ・NGOで働くとはどういうこと? NGOという組織の特徴、メリットとデメリット、専門性を身に着ける
 - ・〇〇で社会を変える:特定の1人を定義する
 - ・自主企画についてグループごとに発表し、受講生同士・講師・サポーターからフィードバックをもらう



自主企画について中間発表

第4回 実施する企画は賛同を得られるか?

- 日 時:2025年12月7日(日)10:00~17:00
- 場 所:JICA中部なごや地球ひろば 2FセミナールームB1・2
- 講 師:織田 元樹さん((特活)ボラみみより情報局 代表理事)
- 進行役:岩田 崇さん(Nたま自主企画サポーター)
 - ・各グループから自主企画の進捗状況について発表、質疑応答、意見交換
 - ・プレゼンを聞いて、もし寄付者だったら、各企画(事業)にいくら寄付をする?
 - ・課題を解決していく上で、「対処療法」と「原因療法」の2つの方法がある
 - ・自分たちの活動がどちらにあたるのかを考えることの重要性を説明



企画について講師からフィードバックをもらう

各グループが企画・実施した活動(自主企画)

- 1) ギリシャーズチーム(相原輝、I・M、長屋加奈子、三浦果子)
 - ・トルコ人ムスリムの方たちと日本人が楽しく交流するイベントを企画
 - ・トルコの料理や日本の料理など、「食」を通してお互いを知る機会を提供し、イスラム教について理解をしたり、日本語が話せなくても、交流することができる、という前向きな気持ちを持てるようなイベント内容を検討した。
- 2) まじめかもチーム(大地優花、後藤純、鷲見菜那香、森田千穂子)
 - ・「にほんごでおしゃべり! こうりゅうかい Japanese Chat Event」の企画・実施
 - ・地域で暮らす外国の方で、日本で会話をしたいと考えているが、日本人との交流の機会が少ない方、またそうした状況により孤独感や疎外感を抱いている方に対して、日本語を使いながら日本人と交流する機会を提供する。
 - ・国籍や文化背景にかかわらず、誰もが安心して楽しく生活を送ることができる多文化共生社会の実現に貢献したい。





フィールドワーク 現場の生の声に耳を傾ける

第1回 海外にルーツを持つ人たちを取り巻く日本社会

■日 時:2025年8月30日(土)10:00~17:00

■場 所:豊田市

■講 師:神田 すみれさん(多文化ソーシャルワーカー、コミュニティ通訳者)

- ・JUNTOSが実施する日本語教室(保見団地)を見学し、JUNTOSメンバーへのインタビューを実施した。
- ・保見団地を散策。
- ・日本に住む外国にルーツのある方たちについて知る:
外国の方の人口増加の背景、在留資格と就労範囲
- ・フィリピン出身の家族のみなさんから、それぞれの立場から見た日本での経験や暮らしについてお話を伺う。
- ・グループごとにそれぞれのゲストへさらにインタビュー、交流。



保見団地を散策

第2回 「参加型」コミュニティ開発を高山で学ぶ

■日 時:2025年9月13日(土)~15日(月・祝)2泊3日

■場 所:岐阜県高山市

■協 力:丹生川地区 里山を楽しむ会／認定NPO法人 まちづくりスポット

〈9月13日〉

- ・フィールドワークで大切なこと、インタビューする際の心構え。
- ・砂田さん(板殿在住)より、板殿地区の成り立ち、現状、抱えている課題について聞く。
- ・里山を楽しむ会メンバーの山腰さんから、「フィールドエンターテイナー」という働き方について伺う。
- ・最近の傾向は、観光地を巡ることに加えて、長期滞在をしながら、地域の特性や生活をじっくり見る旅行者が増えてきている。



山腰さんから地域と観光についてお話を伺う



〈9月14日〉

- ・日影（ひかげ）地区と日面（ひおも）地区をバス内から観察。
- ・2つのグループに分かれて、板殿（いたんど）地区の住民の方へインタビュー、地区を散策。
- ・板殿公民館でチームごとに集めた情報を共有し、夜は発表準備に取り組む。



住民の方へのインタビュー

〈9月15日〉

- ・受講生全員1チームで発表

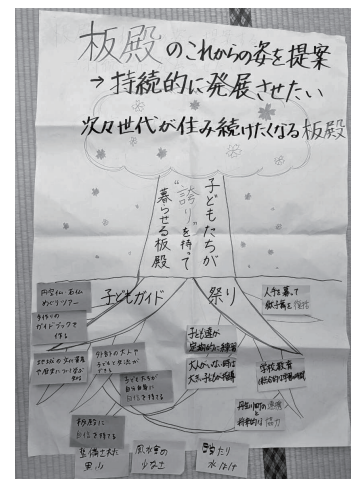
題名『板殿のこれからの姿を提案する～持続的に発展させたい』

～次々世代が住み続けたいために「子どもたちが誇りをもって暮らせる板殿」へ～

- ・住人へのインタビューを元に作成。
- ・板殿に住む子どもたちが住み続けたいと思うようにするには、子どもたち自身が集落に誇りを持つことが大切。
- ・2つのことを提案：子どもガイドの育成、地域のお祭りでの獅子舞の復活
記録としてではなく、記憶として子どもたちに残る体験を提案。
- ・発表に参加した住民の方や協力団体の方たちからは、子どもを巻き込む発想はなかったが、子どもガイドは里山を楽しむ会でも活用できそうな案であったこと、獅子舞の継承についても外部の人を巻き込みたいと、良い意見をいただいた。



受講生全員で発表



発表資料



第3回 国際協力NGOの役割とは？誰もが変化を起こすことができる「人づくり」

■日 時:2025年11月22日(土)10:00～17:00

■場 所:公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)

- ・アジア保健研修所の創設と現在の活動について知る。
 - ・個人ワークとグループワーク「誰もが持てる力を発揮し、参加できる社会」はどんな社会? どんなもの、どんなことがあると良い? かについて考え、意見交換。
→チームで話し合い、メンバーが合意・納得できる社会を雑誌の記事やカラーペンをを用いて表現する。
(コラージュワーク)
- その後、共感した記事及びその理由を全体に共有し、「誰もが持てる力を発揮し、参加できる社会」の実現に向けた方策を考える。
- ・ネパールで活動するLBさんとオンラインでつなぎ、LBさんが活動する住民組織のことや目指すべきリーダーの姿、これまでの経験についてお話を聞いた。



ネパールのNGOスタッフとオンラインで対話



目指したい社会をコラージュで表現



オプション 中部地域のNGOでのインターンシップ

◆ハンガーゼロ((一財)日本国際飢餓対策機構)

〈研修生〉三浦 果子

私はハンガーゼロで約5か月間インターンを行いました。イベントの企画やチラシ作成、アイスブレイクの考案など、初めての経験を多くさせていただきました。ボランティアチームの方々にも温かく迎え入れていただき、展示物の制作やイベント出展にも関わりました。また、以前から関心のあった飢餓や貧困問題について、職員の方や現地のスタッフの方から直接学べたことは非常に貴重な経験でした。インターンを通してアフリカへの関心が一層高まり、将来必ず訪れたいと思っています。



イベントブースにて来場者対応

〈受け入れ団体担当者のコメント(浅野 陽子さん)〉

半年間のインターンシップお疲れ様でした。超多忙なスケジュールの中、自主企画と並行してのインターンシップは時間のやりくりも体力的にも大変だったと思います。ボランティアチームのコーディネートや出展準備など地味な仕事が多い中、いろいろなことに挑戦し経験を積もうという意欲的な姿勢に刺激を受けました。啓発の取り組みでは、来場者目線で活動が伝わるアイデアをいくつも出してくださり、こちらも勉強になりました。これからの果子ちゃんの歩みが楽しみです!

◆(公財)アジア保健研修所(AHI)

〈研修生〉長屋 加奈子

国際研修生との交流・ブログ作成・研修の準備・お料理ボランティア補助等研修に関わる業務、交流会・Nたま研修(オンライン交流)・ボラマッチ・国際協力カレッジ等イベントの企画・運営、ちよい読みサロン・出前授業等AHIの定例行事、多岐にわたる業務を任せてもらえて、いい経験ができました。また、職員の方や大学生・院生インターンやボランティア、幅広い層の方と交流ができました。色々な人を受け入れる風土のAHIで人脈が増え、自分の世界が広がるとともに、今後の課題も見えてきました。



国際研修の様子

〈受け入れ団体担当者のコメント(山下 紗織さん)〉

かなさんは常に明るく、フレンドリーなお人柄で、ムードメーカーとして、他のAHIインターン8名と共に、インターン活動を盛り上げてくださいました。国際研修期間中は、アジアのNGOワーカーから直接学びたいという意欲が高く、積極的に研修生に話しかけて関係を作り、活動について質問するなど、ご自身の学びにつなげていました。かなさんの行動力が他のインターン生に勇気と刺激を与えていたと思います。また、司会がとてもお上手で、交流イベントでは大活躍されていました。



選択セミナー一覧



	番号	日時	協力団体	タイトル
7月	1	7/27(日) 13:00-16:00	ビニンブラザーホッドトーカイジャパン	異文化交流BBQ
8月	2	8/1(金) 19:00-20:30	名古屋YWCA	若者から考える人権学習会 ～マジョリティ特権について考えよう～
	3	8/1(金) 19:00-20:30	ムラのミライ	テーマ別・メタファシリテーション体験セミナー「職場」
	4	8/3(日) 11:00-12:00/ 14:00-15:00	JICA中部	なごや地球ひろば探検ツアー
	5	8/5(火) 19:30-21:00	顔の見える店 ～FAIR TRADE風"s～	ミャンマーのくるみ生産者から話を聞く(仮)
	6	8/6(水) ※水曜の回	わいわい子ども食堂	わいわい子ども食堂プロジェクト
	7	8/8(金) ※3回上映	ベシャワール会名古屋	中村区で中村哲さんの映画を見る会「荒野に希望の灯をともし」
	8	8/9(土) 13:00-15:00	羽島ボランティア協会/Laraの部屋/ 泉京・垂井/アイキャン	【ルワンダ×義肢装具】～可能性を広げる一歩～
	9	8/9(土) ※土曜の回	わいわい子ども食堂	わいわい子ども食堂プロジェクト
	10	8/9(土)	アイキャン	フィリピンの路上の子どもたちを応援する街頭募金活動
	11	8/11(月・祝) 10:00-12:00	JICA中部	感じよう!アフリカ描こう!ティンがティンガ
	12	8/23(土) 14:00-16:00	アジア保健研修所(AHI)	AHIがめざす「健康な社会」「公平な社会」ワークショップ
	13	8/23(土)～9/28(日)	アジア保健研修所(AHI)	国際研修サポート&お料理ボランティア
	14	8/24(日)、8/31(日) 10:00-12:30	ムラのミライ	【初級】メタファシリテーション講座(ステップ1)
9月	15	9/11(木)、9/18(木) 19:00-21:30	ムラのミライ	【初級】メタファシリテーション講座(ステップ1)
	16	9/13(土) 10:00-17:30	「環境デーなごや」実行委員会/ フェアトレード名古屋ネットワーク/ 日本フェアトレード・フォーラム	フェアトレード全国フォーラム2025in名古屋
	17	9/14 ※日曜の回	わいわい子ども食堂	わいわい子ども食堂プロジェクト
	18	9/20(土) 13:30-16:00	アイキャン	一人ひとりが輝く教室のつくりかた ー多文化・多言語環境の子どもたちの日本語教育と評価についてー
	19	9/20(土) 14:00-	オイスカ愛知県支部	2025オイスカデー 五市市剛氏講演会
	20	9/20(土) 13:00-16:00	名古屋NGOセンター/西サハラ友の会/ アムネスティ日本(なごや栄・わやグループ)	公的機関と市民社会のよりよい協働をめざして ～なごや地球ひろば利用不承認から考える～
10月	21	10/5(日) 10:30-12:30	JICA緒方研究所/JICA留学生等	大阪・関西万博テーマウィークイベント 「JICAと考えるSDGsと途上国のいま、そしてこの先」
	22	10/18(土) 14:00-16:00	NIED・国際理解教育センター	人権啓発キャラバン2025特別講演会 LGBT / SOGIの現状と課題 ～レズビアンである私の体験から～
	23	10/19(日) 10:00-13:00	名古屋難民支援室	難民食料支援学び語り合う会 ー支援から共生へー
	24	10/19(日) 10:00-16:00	名古屋市/ 名古屋市民活動推進センター	なごやNPO応援フェス
	25	10/22(水) 10:00-11:30	ムラのミライ	メタファシリテーション体験セミナー テーマ「子ども・若者」
	26	10/22(水) 14:00-16:00	泉京・垂井	ゆる～くつながる、かる～く話せる「生きにくさ」の声をあげる会
	27	10/23(木) 18:30-20:30	レスキューストックヤード	ウクライナ避難者支援のための情報共有会議 第31回 「地域で支えるために」
	28	10/24(金) 18:30-20:30	ハンガーゼロ愛知事務所	世界食料デー ワークショップ 「農業促進×母子の栄養改善」で持続可能な社会へ
	29	10/25(土) 14:00-16:00	ハンガーゼロ愛知事務所	第27回世界食料デー 名古屋大会World Food Day
	30	10/25(土)、26(日) 10:00-17:00	愛知県国際交流協会AIA/JICA中部/ なごや国際交流団体協議会	ワールド・コラボ・フェスタ2025

	番号	日時	協力団体	タイトル
10月	31	10/26(日)13:00-15:00	日本基督教団名古屋中村教会	原生林を伐採から守る人々を訪ねて
11月	32	11/1(土)10:00~16:30	「なごや環境大学」実行委員会／ 「なごや環境大学」実行委員会事務局／	スクリーンから始まる共創 愛知学院大学創立150周年記念×なごや環境大学20周年記念
	33	11/12(水)18:30-20:30	名古屋NGOセンター 西サハラ友の会／アムネスティ日本 (なごや栄・わやグループ)	西サハラ全国キャラバン2025in名古屋 「いつか自由で平和な祖国へ!」
	34	11/12(日)、11/19(日) 10:00-12:30	ムラのミライ	【初級】メタファシリテーション講座(ステップ1)
	35	11/14(金)、15(土)	ホープ・インターナショナル開発機構	ガレッジセール(ファンドレイジングイベント)
	36	11/16(日)	コープあいち	高校生が語る平和と難民
	37	11/20(木)18:00-20:00	オイスカ中部日本研修センター	オイスカ人づくり講演会「松下幸之助に学ぶ経営」
	38	11/21(金)14:00-15:00	日本福祉協講機構 UNIBO SDGs CAFE	なごや環境大学主催 「いつもの一杯が、未来を創る。利用するだけで社会貢献できる サステナブルなカフェ」誰一人取り残さない社会へ
	39	11/23(日)13:30-17:00	NIED・国際理解教育センター	人権啓発キャラバン2025 【部落差別】を参加型ワークショップで学ぶ
	40	11/26(水)18:30-20:00	ピープルズ・ホープ・ジャパン	オンラインセミナー:国際保健の現場で働いてどうということ?
	41	11/28(金)10:00-11:30	ムラのミライ	メタファシリテーション体験セミナー
	42	11/29(土)13:30-16:30	アムネスティ日本 (なごや栄・わやグループ)	2025年度アムネスティ日本全国研修会 「ウイシュマさんはなぜ十分な治療を受けられなかったか?」 ー名古屋入管事件から考えるー
	43	11/29(土)13:00-16:30	名古屋市／名古屋市社会福祉協議会	ほらマッチ!なごや2025
12月	44	12/7(日)、12/14(日) 10:00-12:30	ムラのミライ	【初級】メタファシリテーション講座(ステップ1)
	45	12/13(土)13:00-17:00	JICA中部／名古屋NGOセンター	国際協力カレッジ2025
	46	12/16(火)19:00-20:00	オイスカ中部日本研修センター	長谷川元裁判官講演会「難民事件を担当して」
	47	12/19(金)18:30-20:00	名古屋難民弁護団／ 名古屋難民支援室(DAN)	ガンジス河のほとりで竹炭作り?! ー持続可能な暮らしのために、自然の力を活かした農業の 普及を目指すOISCA×JICAの挑戦ー
	48	12/21(日)13:30-17:00	NIED・国際理解教育センター	人権啓発キャラバン2025 【海外にルーツをもつ人たちの人権】を参加型ワークショップで学ぶ
	49	12/21(日)10:00-11:30	ムラのミライ	メタファシリテーション体験セミナー テーマ「協力隊」
1月	50	1/10(土)10:00-17:00	NIED・国際理解教育センター	NIED国際理解教育テーマ講座2026 「体験!オルタナティブ・スクールのテーマ・スキル学習」
	51	1/17、1/24(土) 19:00-20:30	ムラのミライ	【初級】メタファシリテーション講座(ステップ1)
	52	1/24(土)10:00-17:00	NIED・国際理解教育センター	NIED国際理解教育テーマ講座2026 「対立って乗り越えられるの?」
	53	1/25(日)10:30-12:00	顔のみえる店 ～FAIR TRADE風"s～	ミャンマーコーヒーからみる、ミャンマーの現状
	54	1/26(月)19:00-20:30	アーユス仏教国際協力ネットワーク	「ゼロプラン」と非正規滞在者～支援活動の現場から
	55	1/27(火)15:00-16:30	国際移住機関	国連×民間セクターのチカラで創る、人の移動と共生社会の未来
	56	1/27(火)19:00-20:30	アイキャン	子どもの家10周年記念オンラインイベント
	57	1/30(金)19:00-20:30	ムラのミライ	メタファシリテーション体験セミナー
	58	1/31(土)19:00-20:30	ケニアの未来	「ケニアの未来のビジョンをたどる!」 ケニアにおける子どもの保護ー地域社会と連携した支援の現場
2月	59	2/1(日)10:00-17:00	NIED・国際理解教育センター	NIED国際理解教育テーマ講座2026 「多文化化が進む日本、あなたはどんな未来社会を作りたい?」
	60	2/5(木)18:00-20:00	真宗大谷派名古屋別院(東別院)	仏共講座ーお寺とNPOがともに考える多文化共生



Nたまを通じて気づいたこと

..... 相原 輝



Nたまの講義の感想

自分は現在、アムネスティ・インターナショナルの理事をしており、また名古屋NGOセンターとJICAの合同プログラムである「多文化共生講座」のコアメンバーもしております。Nたままでの経験は、一言でいうととても良い経験になりました。ナイジェリアの方とのバーベキュー、高山でのフィールドワークなど、今までどうしてもネット上でのやり取りだったり情報だったりで中々生の情報を得る機会がなかったので、貴重な機会となりました。他にも主流秩序の話などは改めてヒエラルキーや階層構造という様々な社会問題の根源になっていること、そしてその構造は交差性というのがあり、とても多層的で複雑であることを理解しました。

Nたまの講義中に起きた変化

一方で、Nたまの講義を受けている中で、非政府、非営利組織や外国人を取り巻く状況は大きく変化しました。一つは国際交流を取り巻く状況です。この状況の中で国際交流や多文化共生を取り巻く状況は悪化の一途を辿っています。排他主義や民族主義の高まりによって、国際交流イベントの中止やNGOやNPOの会員や寄付金の減少や企業からの打ち切りといった事態に直面しています。同時に新しいイベントを企画する機会や参加者も減少しています。これには企業の財務状況の悪化やボランティア活動に参加する層が労働市場に取られている現状が表面化していることも、ある程度関係があります。

そのような中で、多文化共生を目指していく過程で求められていることも増えています。外国人の人口は年々増え続け、外国人の出身地や年代構成なども多様化しています。排他主義が躍進しつつも、外国人を全て排除して日本人だけで回すことは絵空事であり、不可能であるのが現状です。産経新聞の地方自治体の首長に向けて行った世論調査において、外国人の増加により「悪い影響」があったと答えた割合はわずか1%であり、大半が「良い影響」が23%、「良い影響と悪い影響の両方がある」と答えた人76%と圧倒的多数となっています。外国人が地域社会に欠かせないかどうかのアンケートでも、「不要」と答えた割合はわずか2%で、「必要」と答えた自治体は53%と半数を超えています。極めて保守的と評されるメディアの世論調査においてさえ、この結果が出ていることは非常に大きな意味があります。

その一方で現状では、自治体の境や国家の主権を超えたネット空間という領域で、共生社会を破壊するような動きが起きています。非営利組織だけでなく、自治体や政府ですら十分な対策ができない状況が続いています。

外国人問題の根源にあるもの

講義を通じて外国人問題の根源を見ていくと、



周辺化や社会の分断など、日本人の中にも存在していた(する)問題が隠れていることに気づきます。周辺化に関しては、かつてドヤ街、その前は被差別部落が押し付けられてきた(暴力的)構造を、21世紀の現代ではそれを主に開発途上国出身の外国人に押し付けて、社会の不均衡による歪みのコストを押し付けてスケープゴートにしているという構図になっています。外国人と日本人の地域摩擦についても、社会の多様化に伴い、日本人同士で価値観や思想の対立が政治的な面ではなく、日常生活やネット社会でも深刻な価値観の対立が起きています。これらの点から、外国人の増加で地域社会の摩擦が増えたことや治安が悪化したというのは、社会が複雑化したり、単に人の出入りが増えた結果起きたものであり、単に外国人が増えて起きた問題とは言いきれません。

問題の根源は、主流秩序(権力を持っている人が良いと思う価値観に序列をつけたもの)がこの世の中に存在し、サブ秩序(好ましい要素を一つずつ序列化)によりさらに細分化されている社会

構造にあります。その中で、一つの要素では多数派でも、それ以外の要素では少数派となり周辺に追いやられるという現状があります。序列は、しばし国民を分断するために意図的に作り出されることもあります。

自分が今後していきたいこと

この事実気づき、自分は我々の社会を序列をつけて分断している構造を理解し、真の原因は外国人や移民ではなくそういった構造であることを世論に対して広く伝えていきたいと思っています。他者化や排除を目指す動きは最終的に自分たちに不利益になることをアピールし、異なる考えや価値観、生活様式を一つに融合していくことの必要性を発信していきたいです。





「人と人とのつながり」の意義

大地 優花



Nたまとの出会い

私は、2018年に当時在籍していた大学の教授に勧められ、Nたまの説明会に参加しました。当時、国際関係学やアフリカ政治を学ぶゼミナールに所属していましたが、知識面において未熟であったことに加え、費用を捻出することができず、応募を断念しました。しかし、大学卒業後、国際情勢に関する情報の収集が困難な状況に直面し、改めて国際協力について体系的に学びたいと考えるようになりました。

2024年12月7日(土)に開催された「ぼらマッチ! なごや2024」に参加した際、特定非営利活動法人名古屋NGOセンターのブースにて田口裕晃さんと出会い、Nたまに関するお話を伺いました。6年の時を経て、再びNたまと巡り会えたことに意義があると感じ、参加を決意しました。

飢餓に対する視点の転換

私は、2013年8月2日(金)に放映された「世界の村で発見!こんなところに日本人」という番組を通し、アフリカ大陸の南東部に位置するマラウイ共和国における食料不足問題に興味を持ちました。そのため、Nたまに参加する以前から、神田浩史さんが講師を務める「飢餓を生み出すカラクリ～自由貿易と南北格差～」という講義に強い関心を抱いていました。神田浩史さんの講義を通し、飢餓は「食料不足」という単純な問題ではなく、歴史的背景や国際社会における制度、経済格差を含む様々な社会構造と密接に関連していることを学

びました。個人や一部地域の努力のみでは解決が困難であるため、社会構造自体を捉え直す視点が必要であると感じました。

その一方、2025年10月24日(金)に開催された「世界食料デー ワークショップ『農業促進×母子の栄養改善』で持続可能な社会へ」という選択セミナーでは、インドネシアで飢餓・貧困を克服するために様々な活動を行っているエフェンディ・アリトナンさんから、コミュニティ開発に関する実践的なお話を伺いました。エフェンディ・アリトナンさんの講義内容は、大学在籍時に学んでいたコミュニティ開発の考え方と通ずる部分も多く、地域の資源(アセット)や課題(ニーズ)を明確化した上で、住民主体の運営を促すことの重要性を再認識しました。また、地域に即した持続可能な社会を実現するためには、外部支援に依存するのではなく、住民同士の協力関係や信頼関係が不可欠であると感じました。

飢餓は世界規模の問題として取り扱われる一方、最終的には「地域や住民の主体性をどのように育むのか」という視点が重要であると考えました。また、国際社会は既存の社会構造に変革を起こす役割を担うとともに、地域の取り組みを後押しする立場として関与することが求められると感じました。



自主企画を通して実感した

「人と人とのつながり」

自主企画では、日本語を通して会話する機会が乏しい外国にルーツを持つ人々に対し、安心して日本語を使用できる機会を提供することを目的とした「Japanese Chat Event」という交流会を立案しました。交流会の実現に向け、グループ内で意見交換を重ねてきましたが、自主企画に対する理解や進め方に相違が見られ、調整に時間を要する場面もありました。

上述の過程において、課題に直面することも多々ありましたが、一般財団法人日本国際飢餓対策機構（ハンガーゼロ）の関係者や職場の上司・同僚を含む多くの方々からの助言や協力を得ながら、自主企画の運営に携わることができました。最終的には、日本語学校や日本語教室とのつながりも構築することができ、自主企画を進める上で大きな支えとなりました。

自主企画を通し、NGOでは「人と人とのつながり」が活動を支える重要な基盤であることを実感しました。また、こうした関係性の蓄積が、持続可能な活動の実現や人々との信頼関係の構築につながるのだと再認識する機会となりました。

Nたまを終えて

私は、「NGOにおける国際的な活動を通し、世界に貢献する」という夢を長年抱き続けてきました。その夢の実現に向け、2025年7月26日（土）のオリエンテーション講座では、「国際協力に関する様々な知識を習得し、NGOで活躍できる人材となる」という目標を掲げ、努力を重ねてきました。その一方、自主

企画に取り組む中で、他者のために行動することの難しさや自分自身の限界と向き合う場面があり、今後の活動に対する向き合い方について考える機会となりました。

現在、「ぼらマッチ!なごや2024」で出会ったハンガーゼロのボランティアチームの一員として活動しており、2026年1月18日（日）をもって活動開始から1年を迎えました。現地で活躍されているVOCファシリテーターの方々や浅野陽子さんから伺ったお話を「ワールド・コラボ・フェスタ2025」や「国際協力カレッジ2025」にて発信し、理解を深めることができた1年であったと感じています。

NGOにおいて継続的に活動する難しさを実感したことを踏まえ、当面はハンガーゼロのボランティアチームの一員として活動を継続し、Nたまを通して学んだ「人と人とのつながり」を大切にしながら、知見を深めていきたいと考えています。





いま、ゼロ地点に立ちました

..... 後藤 純



マイナスからのスタート

このレポートを書くにあたって、ふりかえりシートを見返してみました。初日7月26日、「Nたま研修半年間の個人目標を立てよう」というテーマを前に、私は明らかに困っていました。なぜなら、ボランティア経験もなく、多文化共生という言葉も知らず、NGOという言葉の意味すらあやふやなまま参加してしまったからです。個人目標を立てるために書いたメモは、今見ても“困った感”がにじみ出ています。無理矢理それらしい目標を捻り出そうとした跡が見受けられます。

何も知らないまま、参加する意味を深く考えないまま参加を決めた理由は何だったのか。Nたま募集のパンフレットにあった「研修を受けていく中で自分を変えた」「新しい考えを手に入れた」「自分の答えを見つけた人は、強い行動力を発揮する」という言葉。それらの言葉にひかれたのが参加を決めた理由です。そして、「研修を通して(中略)研修生自らがNGO活動を創造していけるよう企画されている」という一番大切な部分はすっぽりと抜け落ちていました。

捻り出した個人目標は「今はあまりにも人ごとになっているので、社会の様々な問題を自分の事として考え、困っている誰かを支えられる自分になりたい。支えるための知識、知恵を得たい。」でした。

目標とするにはうまく言語化できなかったのですが、A4用紙の走り書きには「色々な考えの人と話したい」「自分の知らないことを知りたい」「純粋に目の前の人が喜んでいる姿を見たい」とありました。

きっかけ

ボランティアをしてこなかったのには自分なりの理由があります。「人を助ける、手助けをする」という行為が上から目線のように感じ、抵抗があったからです。今思えばそれは、困っているかもしれない誰かより自分は上であると思っていて、それは明らかにおごりでしかないのに、手助けをしないことの言い訳にしていました。

意識が変わったのは保見団地でのフィールドワークでした。JUNTOSの方たちが子どもたちという光景を見たときでした。上も下もなく、「並んでいる」と感じた光景でした。実際にお話を伺うと、どこの国籍だとか意識をしたことがないとおっしゃっていました。その言葉通りの偽りのない景色を目の当たりにし、この時、自分の中のあった人を手助けすることへの抵抗感が薄れた気がしました。

「飢餓を生み出すカラクリ」の講義では、「援助の思想からの脱却」という言葉を知りました。援助の思想からは上下関係が生まれるということを知り、とても驚きました。援助するということは100%よいことだと世間的には考えられていると思っていました。私はそうは思えなくて、手助けすることを躊躇していました。この講義を受け、私が感じていたことはおかしくはなかったのかもしれないと思うことができました。「意識の下にある優位性を意識する」「よかれと思ってすることがそうではないことも



ある」「いろんな人への影響を考えて行動する」。ずっと自分に刻み続けておきたい言葉だと思いました。

今やっとゼロ地点

自分の中のこだわりが解決されたこともあってか、日本語教室のボランティアに行くようになりました。ここでもNたま参加の時と同様、(思っていたより難しいかも)という困った事態になっていますが、「途切れ途切れでもいいから長く続けてほしい」と代表の方に言われたこともあり、また、理屈抜きで楽しいので続けてみようと思っています。

この半年間、Nたまに参加しなければ出会えなかった人や言葉や考え方にたくさん出会えました。そのなかで、自分はアウトプットが苦手、コミュニケーションにおいては伝えることがうまくできないということに気付きました。しかし、伝えることに苦手意識があってもうまく伝えられなくても、困ったこと、分からないことは誰かに相談すればいいということを覚えました。さらに、そこで解決できないことがあっても、繋がる別の人に相談できるということも経験できました。自分ひとりの時より、どんどん広がっていくという感じがしました。

スタート地点でゼロどころかマイナスだったこともあり、たまごの殻を割ることはできなかったように思います。ただ、今は新聞を読んでも視点が変わったように感じます。世の中は課題だらけだと感じるようになったことは大きな変化だと思います。知らないことを言い訳にしないで、これからも知らないことを知っていきたいし、困り顔の人が笑顔になるような知識や知恵、方法を得ていきたいと思っています。





Nたま研修で学んだこと

..... 鷲見 菜那香



Nたま研修を通して、私は大きく二つのことを学びました。これらの学びは、研修期間中だけでなく、今後のボランティア活動や日常生活においても重要な意味を持つものであると感じています。

一つ目は、NGOとして企画などしようと思っても、それをすぐに実現できるわけではないということです。大学のボランティアサークルで活動していた際は、既に用意されているイベントにボランティアとして参加したり、イベント開催のための企画会議に参加したりすることが多くありました。そのため、活動は「やりたい」と思ったときに、すぐ始めたり準備を進めたりできるものだと考えていました。しかし、Nたま研修を通して、NGOでイベントや活動を企画する際には、まず企画書を作成する必要がある、その企画が認められることも簡単ではないことを学びました。研修の中で企画を考える際には、「その企画は本当に対象者にとって必要なのか」、「なぜその活動を行いたいのか」といったことを、第三者にも分かるように説明することが求められました。企画をする理由やどのように行うかなど詳細を言葉にして伝えることは、想像していた以上に難しい作業であると感じました。自分の中では理解できているつもりであっても、それを他者に説明しようとする、言葉が足りなかったり、事業する理由の根拠が曖昧であったりすることに気付かされました。また、他者からの質問を受けることで、自分では十分に考えられていると思っていた部分にも、まだ詰め切れていない点が多くあることを実感しました。こうした経験を通して、現在私が学生ボラ

ンティアとして参加している活動は、企画者がこのような簡単ではない過程を積み重ねて成り立っているものであるということを、改めて実感しました。

二つ目は、コミュニケーションの方法についてです。研修の最初の講義では、コミュニケーションにおいて「思いやり」を大切にすることの重要性を学びました。自分の意見を相手に伝える際の言葉選びや態度だけでなく、相手の話をどのように聞くかという点も、コミュニケーションにおいては非常に重要であることを教えていただきました。特に、相手の話に耳を傾ける「傾聴」の姿勢が大切であることが印象に残っています。Nたまに参加する以前の私は、人の話を聞く際、話された内容を忘れないようにメモを取ることに必死になっていました。メモを取っていることで、自分では相手の話をきちんと聞いているつもりになっていました。しかし、Nたま研修では、傾聴とは頭や心だけでなく、体ごと相手に向けて話を聞くことであり、そのためには話し手が話している間はメモを取らないことが大切であると学びました。相手の方を見て、話し手に注意を向けながら話を聞くことが、思いやりのあるコミュニケーションに繋がるということを勉強しました。話された内容を記憶することについては、Nたま研修を受け始めた夏の頃は上手にはできず、難しさを



感じることも多くありました。しかし、12月に大学の講義で行ったペアワークにおいて、一方が話した内容をもう一方が簡潔にまとめるというワークをした際、自分が、相手の方を見ながら話を聞いて内容を記憶し、その要点をまとめることが出来ていることに気付きました。そのとき、以前のようにメモを取っていた頃よりも、「相手が自分に何を伝えようとしているのかをしっかりと理解しよう」という意識が強くなっていることを感じました。Nたまで傾聴を意識して話を聞く経験を重ねてきたことで、少しずつ思いやりのあるコミュニケーションが身についてきていることを実感しています。

今後は、以上のNたまで研修で学んだことを意識しながら行動していきたいと考えています。企画に関する学びを通して、活動は「やりたい」という気持ちだけで成り立つものではなく、その活動が本当に必要とされているのかを丁寧に考え、他者に伝える責任があることを学びました。今後、ボランティア活動やイベント運営に関わる際には、企画の背景や目的を常に意識し、対象者の立場に立って考える姿勢を大切にしていきたいです。また、企画を

進める過程で意見が分かれた場合にも、自分の考えを一方的に押し通すのではなく、相手の意見に耳を傾けながら、より良い形を模索していきたいと考えています。

さらに、コミュニケーションにおいて学んだ傾聴の姿勢は、ボランティア活動に限らず、大学での学びや日常生活においても活かせるものであると感じています。相手の話を最後まで丁寧に聞き、相手が何を伝えたいのかを理解しようとする姿勢を持つことで、信頼関係を築きやすくなると感じました。

今後は、Nたまで学んだ思いやりのあるコミュニケーションを意識し、ボランティア活動においても自然に傾聴が出来ることを目指していきます。





夢！とにかくやってみなはれ

..... 長屋 加奈子



60歳で退職「国際協力のNGOで働きたい」

50代後半から、「60歳からの人生をどう生きよう」と考え始めていました。小学校教諭は大変だけどやりがいがあり、定年後も続けるという選択もありましたが、「国際協力で働きたい」という夢に向かって進むことにしました。そのために、Nたまを受講してNGOや国際協力について学び、今後の生き方を考えようと思いました。開講の講義でNたま終了後はどんな自分になっていたかとの問いに「国際協力のNGOで働いている」と書いたことをよく覚えています。

Nたま始まる「Nたまは自分の見つめ直し…」

①NGOはなぜあるのか

「社会のこと考えていなかった…」

Nたま講義はとても面白く、毎回楽しみな反面、自分がいかに無知で視野が狭いかを思い知ることになりました。自分が、どんな社会を望むのか、どんなビジョンをもつのか課題を定め、社会を変えていくというNGOのやり方は、なるほどと思う一方、「私の目指す社会って何？」と自分に問うてみると漠然としていて、なかなか言葉に表すことができませんでした。

②飢餓を生み出す構造的要因

「自分のできることから…」

私は青年海外協力隊員として、90年代アフリカで活動していました。現地の人といい人間関係を築き、草の根活動として日本の国際協力に貢献している自負がありました。しかし、世界の飢餓の原因が、干ばつ等自然環境や内戦等の社会環境だ

けでなく、自由貿易や南北格差という構造的要因にもあり、それには換金作物への生産変換、過度の森林伐採等ODA事業も含まれると知り、ショックでした。それでも、フィリピンNGOの「ふみつけている足をのけるのが日本のNGOである」という言葉に希望の光を見るとともに、自分は何ができるか考えていこうと思います。

③主流秩序に依存しない生き方

「引き出しに対応策をたくさん持って…」

私はあまり主流秩序に依存しない、言うなれば我流秩序で生きてきたのですが、講義を受けて、だからあの時大変だったのかと気が付くことはあります。会社員の時、主任が指示したスケジュールは、明らかにキャパオーバーでした。グループリーダーだった私は、何度も変更を提案しましたが、会社初の女性課長になると言われていた彼女は、首を縦に振りませんでした。文字通り死に物狂いで働き、達成できたことは、大きな自信になりましたが、わだかまりや疑問は残りました。どう言えば彼女は納得したのでしょうか。講義で「対応の仕方をたくさんもっているとあきらめなくてすむ。何かあったらどうするか考えておく」と学びました。それは相手の言動の理由、大切にしているサブ秩序を理解し、切り返しをいくつも用意しておくことと考えます。やはり学び続けることが大切です。



自主企画からの学び

「自分の想いを形にするには…」

①企画書の作成「入口は一人のために、出口は大勢のために」

企画書を立てるとき、対象を特定の一人にして考えるという手法を、初めは理解できませんでした。「大勢の人のためじゃないの?」しかし、石井さんの「NGOの活動は、必ずこの人は喜んでくれるということをするに意味がある、皆が喜ぶことは行政に任せればよい。」、織田さんの「一人のためにやるのが周りのみんなのためになる。」の言葉で納得し、その考えがNGOの原点かなと考えます。

②テーマが二転三転した自主企画

「多文化共生とは…」

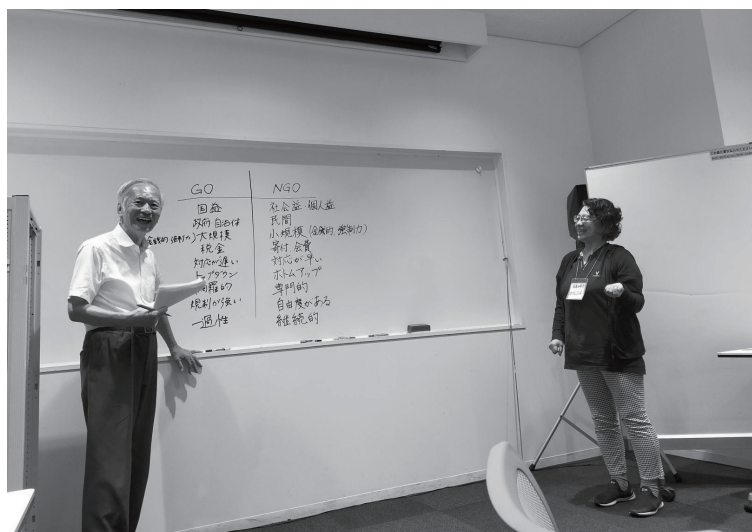
私達の自主企画は、二転三転してしまいました。実現に至らなかったテーマについては検証しました。その際に、「多文化共生とは、この人はこういう人だと尊重するだけでなく、相手がどうしてそう考えるのかまで考えなければいけない」と指摘され、はっとしました。私は、人間は誰もが自分なりの価値観が大切なことを理解し、相手を尊重しているつもりでした。しかし、皆が自分らしく生きられる社

会を実現していくためには、対立しているように見える相手の価値観をも尊重した上で、どう行動したら対等な関係を築いていけるかを考え、対話をしていくことが欠かせないと思います。

これからの私「とにかくやってみなはれ」

フィールドワークで、色々な方に出会いました。NGOで働くことは厳しい面があることも知りました。しかし、池住さんの「後20年は頑張る」との言葉や、「やりたくないことはやらない」「やりたいことがあったからNGOを立ち上げた」「目の前のことをやっていたらこうなった」等、しなやかに生きる方々から勇気をもらいました。開講当初に立てた目標は道半ばですが、今は、周りの人に感謝して、今いる場所で頑張りが「国際協力で働く」ことを広く捉えて、自分の力を蓄えようと思います。

昨年の三月、小学校教諭を退職する日、「私も頑張るから、あなた達も夢に向かって頑張って」とエールを送るつもりで子ども達に贈った「あきらめたらあきらめん。とにかくやってみなはれ」の言葉を、今、自分自身に贈っています。これからなのです。





どこに向かって、誰の側に立ち、

誰と共に歩むのか 三浦 果子

きっかけ

私がNたまを受講しようと思ったきっかけは、大学2年生の時にJICAで行われた国際協力カレッジで出会った人たちのことを思い出したことでした。そこで出会ったNGO/NPOの分野で仕事をしている人たちが生き生きと輝いて見え、国際協力や社会貢献を仕事として続けている姿に強い憧れを抱きました。しかし当時は、「かっこいい」という気持ちを抱くだけで、自分には無理だと思っていました。大学3年生になり、本格的に就職活動を始めたことで、自分の将来について考える時間が増え、「本当にこのままでいいのだろうか」「自分は将来どう生きていきたいのだろうか」といった漠然とした不安や迷いを感じるようになりました。そこで改めて、自分が大切にしたい価値観や関心のある分野について考え直し、もっと視野を広げたい、自分の軸となるものを見つけないかという思いから、Nたまへの参加を決意しました。

自主企画での紆余曲折

約7か月間の研修は、振り返ってみると本当にあっという間でした。中でも特に印象に残っているのは、自主企画を通して経験した数々の試行錯誤です。企画をゼロから考え、グループで一つの形にしていく過程は想像以上に難しく、意見がまとまらなかったり、思うように進まなかったりすることも多くありました。しかし、その一つひとつの過程が大きな学びにつながっていたと感じています。何度も書き直した企画書や、何度も重ねたミー



ティング、実際に現場へ足を運んだ経験は、決して無駄ではありませんでした。自主企画を通してさまざまな社会問題に触れる中で、私はこれまで表面的な知識だけで「理解したつもり」になっていたことに気づかされました。問題の背景にある歴史や構造、本質を知ることの重要性を学ぶと同時に、実際に当事者や関係者の声を聞くことが不可欠であると実感しました。また、年齢も立場も異なる多様な人たちと共に学び、考え、行動することができた点も、自主企画の大きな魅力だったと思います。年上の皆さんから聞く経験談や意見はとても刺激的で、自分一人では気づけなかった視点をたくさん得ることができました。異なるバックグラウンドや価値観を持つ人たちと一緒に企画に取り組んだ経験はとても貴重なもので、今後社会と関わっていく上でも大きな糧になると思います。さらに、Nたまを通して、これまであまり関心を持っていなかった分野にも目を向けるようになりました。忙しさの中で選択セミナーを十分に受講できなかったことは心残りですが、研修が終わった後も、「難民問題」や「イスラム教」、「多文化共生」といったテーマについて、引き続き学びを深めていきたいと考えています。



心に残った言葉

また、講義の中で出会った言葉も強く心に残っています。池住さんの講義では、「あなたが社会を変えるためにできること百か条」の第一条は「無力感を克服すること」だと教わりました。「なくしたい」「取り去りたい」「廃絶したい」と願うだけでなく、「なくせる」「取り去れる」「廃絶できる」と自分が信じることで、問題への向き合い方や関わり方、そして生き方そのものが変わるのだという言葉に、大きな勇気をもらいました。神田さんの講義では、飢餓は単なる現象ではなく、その背後にある構造的な要因を理解することが重要だと学びました。「かわいそうだから」という感情だけで行う支援は、「足を踏みつけられながら頭をなでられているようなものだ」という言葉は強く印象に残っています。遠くの国で起こる飢餓や環境問題も、私たちの生活と無関係ではなく、食や消費といった身近な選択からでも社会は変えられるのだと気づかされました。

今後について

現在も「将来どう生きていきたいのか」という問いに対する明確な答えは出ていません。しかし、これからもNGOや社会課題と関わり続けていきたいという思いはあります。Nたまを通して、数えきれないほどのNGO/NPO団体やその職員の方々と出会いました。どの団体にもそれぞれの背景や強い思いがあり、そして根底には人や環境を思いやる気持ちがあると思いました。Nたまに参加していなければ出会えなかったであろう、ユニークで温かい人たちとつながりを持てたことを、とても嬉しく思っています。

「どこに向かって、誰の側に立ち、誰と共に歩むのか」という池住さんの言葉を忘れずに、これからも

考え続けながら、自分なりの社会課題との関わり方を見つけていきたいと思います。





経験を社会へつなぎ直す実践

..... 森田 千穂子



立ち止まって見直すという選択

本研修に参加したのは、これまでに培ってきた経験や力を、今後どのように社会と結び直していくのかを確かめたいと考えたからです。仕事を続ける中で見えてきた自分の得意分野や役割を、「誰のために、どう使うのか」について改めて問い直し、自分を育ててくれた社会と、成果や報酬とは違う形での関わり方を模索したい。単なる知識の習得ではなく、他者と対話できる実践の場を求めて「Nたま」に参加しました。

理念から現実へ—NGO活動の本質を知る

当初、NGO活動は理念や善意を原動力とするものという印象を持っていました。しかし講義やワークショップを通じて、制度や社会構造、そこに生きる個人と向き合う、極めて現実的なフィールドであることを学びました。

特に印象に残ったのは、社会課題を「誰かの問題」とせず、「なぜ自分が関わるのか」という問いを出発点にしている点です。外国にルーツを持つ人々の状況を知る中で、努力や善意だけでは越えられない壁が、制度や社会の無意識の価値観として存在していることを理解しました。

その現実を前に、すべてを抱え込むのではなく、自分が担える範囲を見極めながら関わる姿勢の重要性にも気づかされました。目の前の人と丁寧に向き合い、無理なく関係を続けていくことが、結果として持続的な社会貢献につながる。立場の違いを前提にしながらも対等な関係を模索し続ける姿勢こそが、NGO活動を支えているのだと感じました。

一人の外国人女性との関わりと気づき

研修と並行して、私は一人の外国人女性と関わる機会を得ました。研修初期の課題であるインタビューをきっかけに、通っているジムで声をかけたのが始まりです。

彼女は夫の仕事に伴って来日し、半年以上が経っていました。何か困っていることはないかと尋ねると、日本人の友人もできず、外国人のコミュニティに属することもなく寂しい思いをしているとのこと。その様子から、彼女にとって切実な課題だと気づかされました。

それから私は、ジムで顔を合わせるたびに言葉を交わし、会話を重ねていきました。日常の挨拶から始まり、少しずつ話題を広げ、知人を交えたランチ会を開き、さらに夫婦を自宅に招いて食卓を囲む機会も設けました。

行動の出発点にあったのは、「役に立ちたい」という率直な思いでした。この国を嫌いになってほしくない。孤独や悲しさが、日本での記憶として残ってしまわないでほしい。そして、フィールドワーク先で聞いた「大きなことをしなくてもいい。まずは身近な外国人に声をかけてほしい」という言葉を、自分なりに実行したいと考えたからです。

やがて、家族観や人生観、互いの国の文化について語り合う中で、私たちの関係は対等な友人同士へ



と変わっていきました。この経験を通して、支援とは特別な行為ではなく、相手の声に耳を傾け、必要とされている関わり方を考え続けることだと実感しました。彼女との出会いは、私自身の多文化共生に対する解像度を大きく引き上げるものとなりました。

自主企画で見えた自分の役割とチームの力

自主企画では、年齢や経歴の異なるメンバーとともに、外国籍の方々に対して何ができるかを考えました。私が知り合った外国人が抱える「寂しさ」を企画の起点とし、まずは人と出会える場をつくることを目標に交流会を企画しました。

企画を進める中で、それぞれがこなせる分野が次第に明確になり、役割分担が生まれていきました。私は全体のスケジュール管理やミーティングの進行といった調整役を担いながら、個別のタスクにも取り組みました。個人事業主として培ってきた、全体を俯瞰しつつ具現化する力が活かされたと感じています。

一方で、熱量や経歴の異なるメンバーの中、立場は対等でありながら、最年長としてどのようにふるまうべきかは常に試行錯誤が伴いました。前に出過ぎることなく、しかし必要な場面では責任を担

う。そのバランスを探る中で、互いの強みを尊重し合い、補完し合うことこそが、チームとして動くということなのだと実感しました。

この自主企画を通して、「役に立つ」とは答えを出すことだけではなく、他者が力を発揮できる環境を整え、共に歩むことでもあると学びました。

学びを社会へひらく

この研修を通して、年齢に関係なく人は学び続けることができると実感しました。一人の外国人女性との関わりや自主企画を通じて、共生とは個人同士が向き合い、相手の思いを知ろうとする姿勢の積み重ねであると理解しました。

違いを前提に「分かり合おう」とする関係から生まれる理解は、偏見を和らげ、共生社会の土台を形づくります。

社会と関わることは、他者のためであると同時に、自身の在り方を問い直し、耕し続ける行為でもあります。本研修は、私がこれまでに培ってきた経験を社会へつなぎ直すための、確かな起点となりました。





二角 智美 名古屋NGOセンター理事・Nたま8期修了生

それぞれの一步

半年間のNたま研修、本当にお疲れさまでした。みなさんとは面談の際に初めてお会いし、日々感じていること(もやもやしていることも含め)や、「こうなりたい自分」についてお話を聞かせていただきました。

私自身、大学生のときにNたま研修を受講しました。当時は「将来はNGOスタッフになりたい!」という思いを持って参加し、研修修了後もその気持ちは変わりませんでした。しかし、研修を通して、自分がそれまで知らなかった世界に触れ、今まで考えたことのなかったことについて考える機会が数多くありました。時には、悩んだこともあったように思います。

みなさんは、研修前と研修後を振り返ってみて、いかがでしょうか。

ある程度期待していたことが達成できた、次への一步が見つかった、逆にもやもやすることが増えた、まだこれからのことを考えている最中など、さまざまな思いがあるのではないかと思います。ですが、Nたまに「正解」はありません。良かったことも、そうでなかったと感じることも、研修を受講したからこそ得られた大切な経験や気持ちだと思います。ぜひ、これからもその思いを大切にしてください。

そして今後は、同じNたま修了生として、みなさんと一緒に活動できたら嬉しいです。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。



岩野 玲奈 本研修担当事務局スタッフ

ゆるやかにつながり続けるために

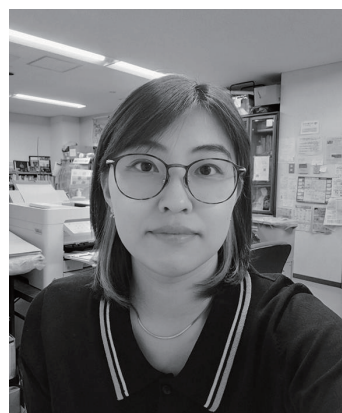
本年度から初めてNたま事務局として本講座を担当しました。20期生として受講していた自分が、今度は事務局の立場でNたまに関わることになるとは思っておらず、半年間を共に過ごす中で、受講生のみなさんから日々多くの学びや力をいただきました。また、講座の運営に尽力してくださった講師・サポーター・関係者の皆さまに、心より感謝いたします。

Nたまは、知識やスキルを得るだけの講座ではなく、人との出会いや対話を通して自分の考え方や視野が少しずつ広がっていく場だと、改めて実感しています。今年の22期生のみなさんも、それぞれの場面で、大切な気づきを受け取ってきたのではないのでしょうか。

そして、最後に1つだけお願いがあります。

それは、ゆっくりでもいいので、NGOや市民活動、そしてこの講座で生まれたつながりを“閉ざさないでほしい”ということです。大きく前に進まなくても構いません。迷う時期があっても大丈夫です。ただ、この半年で出会った人や経験を、細く長く、ゆるやかにつなぎ続けていってください。

みなさんのこれからを応援しています。事務所には、いつでも気軽に寄ってくださいね。半年間、本当にお疲れさまでした。





ご支援・ご協力いただいた皆様



研修を実施するにあたり、次の皆様からのご支援・ご協力を頂きました。
心より感謝申し上げます。

(敬称略・順不同)

企業、団体のみなさま

連合愛知、岡谷鋼機株式会社、四国グローバル・ネットワーク、
株式会社ウィーケン、レザークラフトワールド株式会社、旅と手仕事の雑貨店ルティカ

個人のみなさま

●レディフォー

貝谷京子、笠原聡太郎、松中みどり、和田信明、中尾さゆり、関口威人、筒井広治、
落合佑哉、工藤泰三、中島隆宏、北村祐人、坂部武志、青木研輔、熊澤友紀子、
鉄井宣人、川島知司、遠山涼子、河合良太、斉藤順子、村田元夫、水谷洋子、窪川
佐紀、中垣貴裕、中島正博、吉岡嗣晃、中島正人、斉藤尚文、八木巖、高野菜、
黒田朱里、佐藤元紀、高橋美和子、小森夏未、渡辺祐樹、池住義憲、佐藤光、高木
雅成、和田さとみ、大川元嗣、松本恭一、小池康弘、山本梨恵、藤本潔、裏見登志子、
尾崎寿光、藤井朋子、鈴木二葉、谷川毅、和喜田恵介、青山岳史、浅野愛美、福嶋
聡子、櫻井裕子、二角智美、丹羽俊策、大屋正人、前倉英人、吉田弘生、横井春香、
森元裕恵

●継続(年間、マンスリー)サポーター

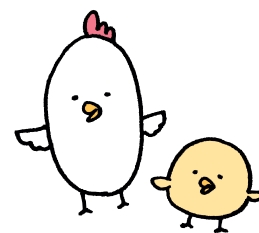
原田篤実、加藤里紗、塩田真也、大須賀恵子、春田みな美、松浦史典、栗田佳典、
松浦良子、木村容子、佐藤光、河野侑里、安村妙、横井春香、武藤由師

●寄付サポーター

松浦史典、中野行俊、伊佐次歩、岩田崇、佐藤光、林滋、竹内由美子、近田千波、
小久保紀子、石井りか、渡邊正子、曾我部行子、熊谷雄一、青木研輔、増田いづみ、
安達三千代、中垣貴裕、大川真依、林かぐみ、尾崎寿光、市川隆之、高橋美穂、川島
知司、中島隆宏、神田すみれ、筒井広治、天野浩己、石黒好美、中島正人、木村仁志、
桃井義博、伊藤幸慶、田中幸男、戸村京子、藤井朋子、松本恭一、八木巖、匿名

(2025年2月1日～2026年1月26日)

上記期間以降にご寄付いただいた方々のお名前につきましては、会報にて掲載させていただきます。



「次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジ2025」 報告書

発行日:2026年2月7日

発行者:特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル7F
TEL&FAX:052-228-8109 E-Mail(代表):info@nangoc.org
WEB:<https://www.nangoc.org/>

